



2021 MotoE World Cup

Hikari Okubo 大久保光

2021.5.2 開幕戦スペイン 予選 11 番手 決勝 7 位

2021年大久保光は、日本人初のFIM Enel MotoE World Cup (MotoE) に参戦するライダーとしてスタートを切りました。MotoE は、電動バイクのチャンピオンシップ。2019年から開催されており、イタリアの電動バイクメーカー『Energica Motor Company』が供給する『Ego Corsa (エゴ・コルサ)』という電動レーサーを使用し、タイヤはミシュランのワンメイクで争われます。始まったばかりのクラスですが、参戦ライダーたちは、世界から選りすぐりのライダーが集結する激戦であり、聞きなれない電子音が響き、独特の存在感を放ちますが、レースの魅力は変わらず、激しいポジション争いが見られ、新たなファンを獲得しています。

大久保はかねてから、電動バイクに注目しており、ロードレース世界選手権 (WGP) の名門チームとして知られるアジョモータースポーツから参戦を決めました。大久保ひとりの1台体制で、集中したサポートをしてくれることも、例年がない体制となり、期待が高まります



大久保は事前テストに2回参加し本番を迎えました。WGPと併催で開催されるMotoE(全7戦)開幕戦は、5月2日にスペイン大会で、決勝レース(周回数8ラップ)が行われました。スタート時間が10時5分から15時30分に変更され、気温23℃、路面温度46℃のドライコンディションの中、18台で争われました。4列目からスタートした大久保は、スタートダッシュで5番手まで浮上し、そのポジションをキープしますが、残り3ラップで、フロントタイヤのライフが終わり、2台に抜かれてしまい7位となりました。それでも、無事に開幕戦を終え、しっかりとポイントを獲得したことでチームからは合格点をもらい、次戦へ向け、闘志を新たにしています。

大久保光

「以前から興味があったMotoEに参戦することが出来て嬉しく思っています。WGP参戦は、27歳になりますが初なので、新人として新鮮な気持ちでいます。事前のテストでは、新しい挑戦となるマシンやタイヤ、チームに慣れるべく貴重な時間を過ごしました。フランス人がチーフメカで、フィンランド人のメカが付いてくれます。自分はデータをしっかりみて、セッティングを出して走るタイプですが、チーフメカも同じような考えで、いいコミュニケーションが取れています。実際のレースをしてみて、タイヤのライフを持たせることという課題が見つかりました。朝のレース予定が午後に代わり、路面温度が上昇したことも要因だとは思いますが、コンディションに合わせた走りが、より重要だと気が付きました。また、走行時間が短いので、1ラップ、1ラップの重要性も感じましたし、独特の予選方式にも慣れてポジションを上げて行きたいと思っています。難しいレースだと感じていますが、レースの面白さやライディングを探究して行く楽しさは、これまでと変わらずにあります。しっかりと自分のものにして、まずは、表彰台を目指して行きます」



※次戦フランス大会は5月16日にルマンで開催されます。